

平成22年度 当初予算

平成22年度当初予算の知事査定を終了しましたので、
その概要を発表いたします。

平成22年度は、新しい総合計画
「いきいき ふくしま創造プラン」の
施策を実施する初年度となります。

私は、
総合計画に基づき
効果的かつ戦略的に事業を展開することにより、
「人がほほえみ、地域が輝く“ほっとする、ふくしま”」
の実現に向け、全力で取り組んでまいる考えであります。

平成22年度当初予算

予 算 規 模

9,022億
20百万円

対前年度 +268億円
+3.1%

平成22年度一般会計当初予算の総額は、
9千22億2千万円です。
前年度と比較し、268億円、率にして3.1%の増です。

2年連続の増であり、平成17年度(9,250億円)以来、
5年ぶりの9,000億円台となりました。

当初予算の編成に当たりましては、
経済・雇用対策を県政の最重要課題として、
1月の臨時会に引き続き、
積極的な対策を講じるとともに、
地域医療の確保、子育て支援などの当面する緊急課題や、
県民生活の安全・安心の確保に予算を重点的に配分したところです。

それでは、重点的に推進する事業について、総合計画の
「ふくしまの礎」(人と地域)と
「ふくしまを支える3本の柱」(活力、安全と安心、思いやり)
に沿って説明します。

平成22年度当初予算

ふくしまの礎

人と地域が輝く「ふくしま」

子育てしやすい

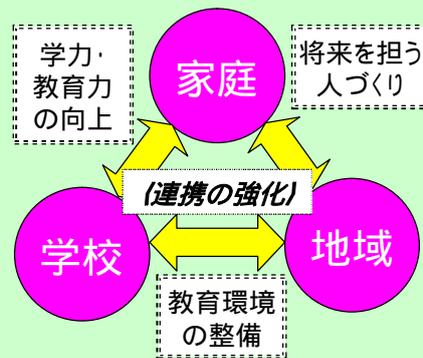
環境づくり

- ・保育所等環境整備の促進
- ・ワーク・ライフ・バランス推進
- ・地域の寺子屋の推進

文化・スポーツの振興

- ・文化施設の連携企画展
（「漆」や「森林文化」をテーマ）
- ・ふくしま文化少年倶楽部

「陸上王国福島」の 実現に向けて



第1に、「人と地域が輝く「ふくしま」」についてであります。

未来の主人公であるふくしまの子どもたちを育成するため、

保育所等の環境整備を促進するほか、県内のあらゆる場面において、ワーク・ライフ・バランスの理解促進に向けた取組みを推進いたします。

生徒一人一人の進路希望の実現のため、

確かな学力の向上に努めることはもとより、

中学生や高校生が自ら社会的な問題に取り組むモデル事業の実施、

3月にオープンする「アクアマリンえっく」の活用、

地域の寺子屋の推進による子育て支援など、

学校・家庭・地域が連携を強化しながら

教育環境の整備を進めてまいります。

また、文化による地域活力を創出するため、県内の文化施設が連携し、

「漆」や「森林文化」をテーマにした事業を展開するほか、

ふくしま文化少年倶楽部を創設し、子どもたちを

地域文化の担い手として育成するための取組みを推進いたします。

各種駅伝大会における本県選手の活躍は、

県民に大きな勇気と元気を与え、

県の活性化に大きく寄与してきたことから、

専門性の高い優れた指導者を養成するとともに、

選手の育成を図ることにより、

「陸上王国福島」の実現に向け取り組んでまいります。

平成22年度当初予算

ふくしまの礎

人と地域

過疎・中山間地域の振興

- ・空き家を活用した定住・二地域居住の促進
(相談センターの開設)
- ・地域づくり総合支援事業の拡充強化
- ・大学生の力を活用した集落の活性化
- ・過疎・中山間地域における地域交通の確保

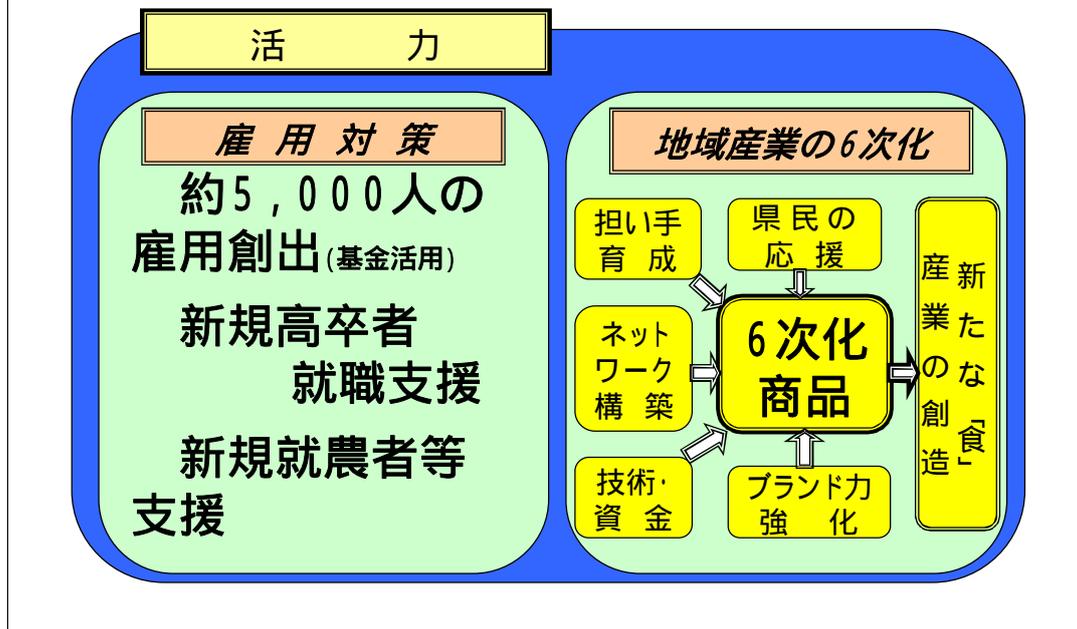
市町村の広域連携の支援

- ・広域連携に係る協議会等に県職員を駐在
- ・出先機関連携による地域別重点施策の推進

次に、空き家情報等に関する相談センターを開設するなど、
二地域居住希望者等への情報提供や相談機能を強化することにより、
定住・二地域居住の一層の促進を図るほか、
過疎・中山間地域の振興につきましては、
地域づくり総合支援事業を拡充強化し、
大学生の力を活用するなど、
地域に特有の資源を生かした取組みを支援します。

また、小規模町村に対する支援体制を強化するため、
平成22年度は奥会津地域(5町村)の協議会に
県職員を駐在させるなど、
市町村の自主的な広域連携の取組みを支援します。

平成22年度当初予算



第2に、「いきいきとして活力にみちた『ふくしま』」についてであります。

雇用対策につきましては、

雇用対策基金を活用し、介護福祉などの重点分野を中心に約5,000人の雇用創出を図るほか、新規高卒者や新規就農者等の就職支援に努めるなど、雇用の場の確保に全庁一丸となって取り組んでまいります。

地域産業の6次化を推進するため、

「(仮称)地域産業6次化調整会議」を新設し、県域及び地方のネットワークを構築するほか、担い手の育成、技術支援、成長産業育成資金の創設など総合的な支援体制を構築いたします。

さらに県民の皆様の応援を得て、6次化商品や「ふくしまイレブン農林水産物」等の県産品のブランド力の強化などを図ることにより、新たな「食」に関する産業の創造を目指してまいります。

平成22年度当初予算

活 力

地域産業の振興

医療機器産業の
拠点形成
環境・新エネルギー
関連産業の集積・育成
企業立地支援の拡充
食文化の発信
・“ごちそう ふくしま”
満喫フェア(仮称)
・ふるさと福島大交流
フェア

広域交流・観光の推進

平成24年度大型観光
キャンペーンの実施に
よる交流の活発化
「合宿の里ふくしま」推
進による地域の活性化
福島空港の利活用の
促進
・青少年交流推進
・空港アクセス支援
・国際定期路線乗り継ぎ
利用促進

次に、医療機器産業の拠点形成に向けた取組みを進めるとともに、
県立医科大学に県職員を駐在させ、
医工連携の促進体制を強化してまいります。
更に環境・新エネルギー関連産業の集積・育成を推進するほか、
企業立地補助金の要件を大幅に緩和するなど、
本県の将来発展につながる産業の振興を図ります。

ふるさと福島大交流フェアの拡充を図るほか、
6次産業化で開発された商品や地域の自慢料理の紹介など、
本県の優れた食文化を、福島県の“ごちそう”として
県内外に幅広く発信してまいります。

全県的な合宿誘致の取組みや
福島空港を活用したスポーツや青少年の交流の拡大など、
広域交流・観光を推進してまいります。

平成22年度当初予算

安全と安心

地域医療の確保

医師確保対策

- ・県立医科大学医学部定員増(5名増)
- ・地域偏在や診療科偏在の解消

地域医療再生計画に基づく取組み

- ・会津・南会津:会津医療センター(仮称)整備等
- ・相双:救急医療体制構築、在宅医療充実強化等

傷病者搬送受入体制の整備

精神科救急医療体制の充実

第3に、「安全と安心に支えられた「ふくしま」」についてであります。

地域医療の確保につきましては、

来年度から県立医科大学医学部の入学定員を

5名増員して105名とし、

さらには県内定着に向けた取組みを強化するなど、

医師確保に努めるとともに、

平成25年2月の開所を目指した

(仮称)会津医療センターの建築工事の着工や、

相双医療圏の救急医療体制の構築に取り組んでまいります。

平成22年度当初予算

安全と安心

安全で安心な地域づくり

地上デジタル放送共聴施設整備支援 耐震化の促進

・県立学校、社会福祉施設、災害拠点病院 等

各種施設等の長寿命化

・道路、橋りょう、地すべり防止施設 等

生活基盤対策や安全確保対策等の 県単独公共事業や維持補修の 事業量確保

また、地上デジタル放送への移行に際し、
災害情報等の地域に密着した情報を得ることができるよう、
共聴施設の整備を支援します。

引き続き県立学校や災害拠点病院等の耐震化を進めるほか、
社会資本の整備については、
生活に密着した道路等の生活基盤対策や
橋りょう等の長寿命化を図るとともに、
維持管理に重点を置き、
1月補正予算に引き続き、2月補正予算も活用しながら、
15か月予算の考え方で編成したところであります。

平成22年度当初予算

思 い や り

支え合いの心が息づく社会

障がいのある子どもを育てる 地域の支援体制の強化

- ・市町村の支援体制の整備促進
- ・特別支援教育の充実・強化
- ・大笹生養護学校等の教育環境の整備

援助を必要とする子どもや 家庭への支援

- ・市町村と連携した消費生活相談体制の強化
- ・母子家庭などのひとり親家庭への支援

第4に、「人にも自然にも思いやりにあふれた「ふくしま」
についてであります。

支え合いの心が息づく社会づくりにつきましては、
市町村等において障がいのある子どもに対する
一貫した支援体制の整備を促進するとともに、
相馬養護学校を県立に移管し、
新たに専任のコーディネーターを配置するなど、
地域への支援機能を強化いたします。

また、消費者行政の機能強化を行う市町村に対する支援を行うなど、
市町村と連携した消費生活相談体制の強化を図ります。

平成22年度当初予算

思 い や り

美しい環境の保全

- 「水のふくしま」の発信
猪苗代湖・裏磐梯湖沼の水環境保全
県民総参加の脱温暖化プロジェクト
- ・「福島議定書」事業の更なる発展
 - ・カーボン・オフセットの推進
 - ・森林資源のフル活用
 - ・中小企業における省エネ化の促進

次に、美しい環境の保全につきましては、
全国湖沼水質ランキングが第2位に再びランクインした猪苗代湖や
河川の水質のランキングが第1位の荒川などの
本県の優れた水環境を
「水のふくしま」として全国に発信してまいります。

低炭素社会づくりにつきましては、
県民総参加の脱温暖化プロジェクトとして、
現在、約2,700の学校や事業所等で取り組んでいる
「福島議定書」事業の
更なる発展を図るとともに、
カーボン・オフセットの考え方の普及や取組みへの支援、
森林整備の加速化や木質バイオマスの利用促進による
森林資源のフル活用、
更には中小企業における省エネ化を進めることにより、
県民や民間団体、事業者、行政等が一体となった取組みを
強化してまいります。

平成22年度当初予算

重点プログラム

- 1 未来の主人公である
ふくしまの子どもたち育成プログラム
- 2 ふくしまの特性を生かした
産業の総合力発揮プログラム
- 3 地域活性化を導く
ふくしまの低炭素社会づくりプログラム
- 4 ふくしまのにぎわい創出プログラム
- 5 健康で生きがいに満ち、
安全で安心なふくしまづくり推進プログラム

さらには、

- 「1 未来の主人公である
ふくしまの子どもたち育成プログラム」
- 「2 ふくしまの特性を生かした
産業の総合力発揮プログラム」
- 「3 地域活性化を導く
ふくしまの低炭素社会づくりプログラム」
- 「4 ふくしまのにぎわい創出プログラム」
- 「5 健康で生きがいに満ち、
安全で安心なふくしまづくり推進プログラム」

の5つの重点プログラムに積極的に取り組むなど、限られた財源を優先的かつ重点的に配分することにより、総合計画の実効性の確保に努めたところであります。

平成22年度当初予算

歳入

県税

1,728億70百万円

対前年度 293億円
14.5%

国庫支出金

1,011億81百万円

対前年度 +20億円
+2.0%

実質的な地方交付税 (地方交付税+臨時財政対策債)

2,917億24百万円

対前年度 +288億円
+11.0%

県債

1,840億26百万円
対前年度 +227億円 +14.1%
臨時財政対策債及び借換債を除く

660億17百万円

対前年度 49億円 7.0%

また、歳入につきましては、引き続き厳しい経済・雇用情勢であり、法人事業税などの県税収入等は大幅に落ち込む見込みであります。地方財政計画で地方交付税や臨時財政対策債が増額され、更に主要基金や積立基金の活用により、必要な財源の確保に努めたところであります。

平成22年度当初予算

歳 出

義務的経費

4,024億78百万円

対前年度 64億円
1.6%

一般行政経費

3,747億13百万円

対前年度 +378億円
+11.2%

投資的経費

1,250億29百万円

対前年度 46億円
3.6%

扶助費(再掲)

(直接扶助費+間接扶助費)

838億25百万円

対前年度 +39億円
+4.9%

一方、歳出につきましては、
経済・雇用対策関連経費のほか、
医療給付費や介護給付費等の
社会保障関係経費(扶助費)などの増加により、
増額となる見込みであります。

平成22年度においても、
人件費の抑制や内部管理経費の節約を図るとともに、
事務事業の効率的な執行に努めるなど、
引き続き、行財政改革を進めてまいります。

平成22年度当初予算

【フリップなし】

最後に、

これらの施策に効果的かつ効率的に取り組むためには、
県民の皆さんを始め、民間団体、企業、市町村と
緊密に連携・協力し、
知恵と力を結集して対応していくことが重要です。

また、これまで以上に県の部局間の連携を強固にし、
県の組織を融合することにより、
重点プログラムに基づく取組みなどを
全庁一丸となって推進し、
将来にわたって県民一人一人が
生きがいと幸せを実感できる県づくりを
積極的に進めてまいります。

以上